

音楽科学習指導案（1年4組）

1 題材 音の重なりや強弱の変化を生かして表現を工夫しよう

2 題材設定の理由

(1) 教材観

①学習指導要領上の位置付け（身に付けることができるよう指導する事項）

〔知識及び技能〕

A表現(1)歌唱イ(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり

ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

B鑑賞(1)イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

〔思考力、判断力、表現力等〕

A表現(1)歌唱ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。

B鑑賞(1)ア(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

②題材の価値

本題材は、混声三部合唱の音の重なり方と強弱に着目し、生徒の思いや意図を基に工夫することを通して、生徒が音の重なりや強弱の変化への関心や、よりよい演奏にするために創意工夫する力、思いや意図を実現するための技能を高めていくものである。本題材で扱う合唱曲「空は今（山崎朋子 作詞・作曲）」は被爆地である長崎県のために書かれた作品で、「希望をもって未来を切り拓いていってほしい」という願いが込められている。intro-A-B-C-B-C-C-Aという構成になっており、AとBのほとんどはユニゾンであるため、生徒にとっては気持ちよく歌いやすい作品である。また、Cの部分では女声を男声が追いかけるような重なりと、三声のハーモニーの繰り返しによって、「ここで生きているんだ」「ここで生きていくんだ」という歌詞を印象付けているため、音の重なりや強弱と歌詞との関わりを捉えやすいものになっている。

パートリーダーを中心に自分たちの演奏について課題を見いだして練習したり、課題を解決した方法を全体で共有しながら試したりする活動を通して、思いや意図を実現するために必要な発声や身体の使い方などの技能を高めることができる。また、「音の重なり方、強弱」という見方と「歌詞の内容」という考え方（感情やイメージ）でどのように歌いたいかを考えたり試したりすることで、新たな思いや意図をもち、音楽表現のふさわしさを吟味しながら創意工夫する力を高めることができる。

③題材の系統性

- ・第1学年では、同声二部合唱の教材を通して、二人組で問題解決しながら技能を高めていく方法を身に付け、反復・変化などの構成に着目して創意工夫する力を高めてきた。
- ・歌唱領域における直近の題材（1学期）では、混声三部合唱「Let's search for Tomorrow（堀徹 作詞・大澤徹訓 作曲）」の音程と強弱に着目し、二人組やパートごとに問題解決しながら練習することを通して、混声三部合唱でのハーモニーを歌う技能を身に付け、強弱に着目して創意工夫する力を高めてきた。
- ・第2学年では、構成や言葉の特徴に着目して混声三部合唱に取り組むことを通して、楽曲全体の中での強弱や言葉が伝わりやすい発音を創意工夫する力を更に高めていく。

(2) 生徒観（男子17名、女子17名 計34名）

- ・知識及び技能については、1学期の歌唱において強弱を変化させようとした際に、「たくさん息を吸う」「お腹を意識して歌う」「ささやくように歌う」などの方法が生徒から提案され、実際に表現することができた。また、強弱記号の基準を「隣の人に聞こえるように」「隣の隣に十分聞こえる大きさで」などと示して取り組ませることで、十分な響きで弱奏部を歌うことができた。しかし、正確な音程でハーモニーをつくることはまだまだ不安定であり、歌詞を伝えるための言葉が伝わりやすい発音については自ら活用できる技能になっていない。これは混

声三部合唱の経験がまだ浅いことや、言葉の抑揚、子音と母音の発声などについての原理・原則を理解できていないことが原因である。

- ・思考力、判断力、表現力等については、1学期の題材において「音が段々低くなると、強弱もだんだん小さく聴こえやすい」ことから、全員が「最後まで小さくならず歌いたい」「伸ばす音の最後までゆっくりと息を使いたい」などの思いや意図をもつことができた。しかし、歌詞の内容（感情やイメージ）と関連させた思いや意図を発言できる生徒は少なかった。これは、曲想と音楽の構造との関わりに着目する学習が多く、そこに歌詞の内容に関わらせる経験が少なかったことが原因だと考えられる。

(3) 指導観

- ・単一の旋律から成る部分と主旋律・副次的な旋律から成る部分とを比較しながら鑑賞することで、音の重なり方の効果を知覚・感受し、音楽を形づくっている要素を根拠として感じたことを説明しながら鑑賞できるようにする。
- ・音の重なり方について、ユニゾンやハーモニー、問いかけと答え、反復など、例をいくつか示し、声を出したり歌ったりして体感することで、音の重なり方についての理解を深める。
- ・パート練習では大きな声よりも参考演奏や他者の声を聴きながら合わせることを優先させることで、全体の響きを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けることができるようにする。
- ・毎時間の学習をワークシートに記録し振り返ることで、次時の課題設定の際に活用し、一人一人がその時間の学習に課題意識をもって取り組むことができるようにする。
- ・音楽を形づくっている要素を基にした視点の中から課題に応じた隊を編成し、交流しながら練習することを「ミュージック・ワークショップ」と名付けて取り組ませることで、「音楽表現の結果を考察」する場をより多く設定し、音楽表現のふさわしさを吟味して創意工夫できるようにする。
- ・ミュージック・ワークショップにおいて、「音の重なりバランス」「強弱」「言葉」について役割分担させ、自分の見方と、歌詞の内容とを関わらせながら参考演奏を聴かせることで、歌詞の内容がどのように音楽表現されているかに気付くことができるようにする。
- ・参考演奏を聴きながら気付いた点を楽譜に直接書き込むよう指導することで、曲に対する思いや意図を蓄積させるとともに、図形譜や言葉などの自分なりの方法で表現する力を身に付けることができるようにする。
- ・ミュージック・ワークショップにおいて、全員で合わせて練習し創意工夫する場面では、二人組になってよい点を指摘し合い、協力しながら取り組ませることで、歌うことへの自己有用感を高め、意欲的に取り組むことができるようにする。
- ・ミュージック・ワークショップでは、「①工夫できそうなことを二人組で共有する」「②試して表現し実感する（歌う）」「③工夫して実感したことを共有し全員で試す」「④自分の役割で吟味し共有する」の順に練習を進めさせることで、役割分担した具体的な視点から音楽表現のふさわしさについて吟味し、創意工夫できるようにする。
- ・技能だけを取り出して学習せず、創意工夫する中で安定したハーモニーをつくることや言葉が伝わりやすい発音について指導することで、自然と活用できる技能として習得できるようにする。
- ・繰り返し練習して技能を習得する際には、パートリーダーが前で聴きながら指導することで、音楽表現のふさわしさを吟味しながら生徒が主体的に練習できるようにする。

3 題材の目標

音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりに関心をもち、それらを知覚・感受しながら歌唱表現を創意工夫したり、自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりし、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付ける。

4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (5 / 6)

(1) 目 標

音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりを考え、歌詞の思いが伝わるように歌唱表現を創意工夫する。

(2) 展 開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p>1 本時の課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「空は今」で一番伝えたいことは何かを考える。 ・「生きている」「生きていく」が繰り返されているから、「生きる」ことを伝えたいのだと思う。 ・「今を生きる」ということ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽譜ではなく縦書きの歌詞を読ませることで、詩として内容を捉えることができるようにする。 ○「一番伝えたい言葉」を考えさせて、この曲のイメージを一言で表すことで、本時のポイントとなる感情やイメージを押さえられるようにする。
<p>課題：歌詞の内容を、音の重なりや強弱を生かして表現をするためには、どのように工夫すればよいだろうか。</p>	
<p>2 演奏に対して思いや意図をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ミュージック・ワークショップ」の役割分担をする。 ○参考演奏を聴いて工夫したい点や注意点を楽譜に書き込む。 ・「生きているんだ」で全パートが重なるので、大切に歌いたい。 ・Dから各パートで別々の動きをし、段々と同じ動きにまとまっていく感じを表現したい。 <p>3 「空は今」を合わせて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二人組で向かい合って、解決方法を考えながら練習する。 ・パートごとの動きになると小さく聞こえて <i>f</i> の感じにならないから、意識して強く歌おう。 ・「きぼうがあしたを」は男女でずれて重って言葉が伝わりにくいので、「き」を強く発音してみよう。 ・「てらしている」では、アルトの音が埋もれてしまいがちなので、たくさん息を流して歌ってみよう。 ・「すきとおるように」をすきとおるような声で歌おうとすると弱々しくなってしまうから、隣の人に十分聴こえる大きさをきれいに歌おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「バランス取り隊(重なり)」「強弱つけ隊(強弱)」「言葉伝え隊(歌詞)」の三つの見方で役割分担させることで、本時の課題を具体的に意識して取り組めるようにする。 ○気付いた点は楽譜に直接書き込むよう指導することで、曲に対する思いや意図を蓄積させるとともに、図形譜や言葉などの自分なりの方法で表現する力を身に付けることができるようにする。 ○役割分担した自分の見方と、歌詞の内容とを関わらせながら参考演奏を聴かせることで、歌詞の内容がどのように音楽表現されているかに気付くことができるようにする。 ○「一番伝えたいこと」と「重なり、強弱、言葉」との関わりを掲示することで、本時の課題に沿った練習が進められるようにする。 ○二人組になってよい点を指摘し合い、協力しながら取り組ませることで、歌うことへの自己有用感を高め、意欲的に取り組むことができるようにする。 ○「①工夫できそうなことを二人組で共有する」「②試して表現し実感する(歌う)」「③工夫して実感したことを共有し全員で試す」「④自分の役割で吟味し共有する」の順に練習を進めさせることで、役割分担した具体的な視点から音楽表現のふさわしさについて吟味し、創意工夫できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思考・判断・表現】 音の重なり方や強弱の変化を知覚・感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫している。 (観察・ワークシート)</p> </div>
<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○最初から最後まで通して歌う。 ○ワークシートに振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○演奏を録音することで、次時の導入において更に具体的な課題が立てられるようにする。
<p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ここで」の部分で男女に分かれると弱々しくなってしまったが、各パートでしっかり歌っておくと「生きているんだ」で一緒になったときに歌詞の力強さを表現できた。もっと伝わるように言葉の発音を整えて、発表に臨みたい。 	
<p><「思考力、判断力、表現力等」育成のための具体的な手だて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現のふさわしさを吟味する「ミュージック・ワークショップ」の展開 	

指導と評価の計画 音楽科 1年 題材「音の重なりや強弱の変化を生かして表現を工夫しよう」(全6時間計画)

目標	音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりに関心をもち、それらを知覚・感受しながら歌唱表現を創意工夫したり、自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりし、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な技能を身に付ける。				
評価規準	<p>【知識・技能】 音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりについて理解し、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。</p> <p>【思考・判断・表現】 音の重なり方や強弱の変化を知覚し、生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫している。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価 (方法・観点)
つかむ	1	<p>◎歌詞の内容と曲想や音楽の構造との関わりに関心をもち主体的に鑑賞する。</p> <p>歌詞の内容を、音の重なりや強弱の変化でどのように表現しているだろうか。</p>	<p>○歌詞の感情やイメージをどのように工夫するかについて見通しをもつ。</p> <p>○音の重なりと強弱の変化の効果を味わう。</p> <p>○音の重なり方を聴いたり歌ったりして体感する。</p>	<p>☆音の重なり方で同じ歌詞を繰り返して印象付けたり、一つに重なったときに大切な言葉を歌って強調したりして、色々な曲に使われているのだな。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。</p> <p>(ワークシート)</p>
	題材の学習テーマ：音の重なりや強弱の変化を生かして表現を工夫しよう				
	2	<p>◎音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりについて理解する。</p> <p>「空は今」の各パートの音や全体像はどのようになっているだろうか。</p>	<p>○参考演奏を聴いて課題を立てる。</p> <p>○音程に気を付けてパート練習をし、曲の全体像をつかむ。</p> <p>○パートごとに円になり、全体で合わせてみる。</p>	<p>☆全パートがユニゾンの部分と別れて重なる部分があり、後者の各パートの音程を正しく歌うことが、この曲を歌う上で大切になりそうだな。</p>	<p>【知識・技能】 音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりについて理解している。</p> <p>(観察・ワークシート)</p>
追求	1	<p>◎歌唱表現を工夫するための思いや意図をもち、音の重なり方や強弱の変化を知覚・感受しながら、歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>音の重なりや強弱を生かして、どのように工夫すればよいだろうか。</p>	<p>○役割分担をして参考演奏を聴き、注意点を楽譜に書き込む。</p> <p>○ミュージック・ワークショップに取り組み、ペアで話し合いながら解決策を考え、共有しながら練習する。</p>	<p>☆1番も2番も、最初は同じ音が続き、サビにハーモニーが多くあるので、後半に向けて盛り上げるように歌うと感動的な合唱になった。</p>	<p>【思考・判断・表現】 歌唱表現を工夫するための思いや意図をもち、音の重なり方や強弱の変化を知覚・感受しながら、歌唱表現を創意工夫している。(観察)</p>
すすめる	1 (本時)	<p>◎音の重なり方、強弱の変化や歌詞の内容などと曲想との関わりを考え、歌詞の思いが伝わるように歌唱表現を創意工夫する。</p> <p>歌詞の内容を、音の重なりや強弱を生かして表現をするためには、どのように工夫すればよいだろうか。</p>	<p>○この曲で何を伝えたいのかを考え、どう表現されているかを捉える。</p> <p>○役割分担をして参考演奏を聴き、注意点を楽譜に書き込む。</p> <p>○ミュージック・ワークショップに取り組み、ペアで話し合いながら解決策を考え、共有しながら練習する。</p>	<p>☆「ここで」の部分で男女に分かれると弱々しくなってしまったが、各パートでしっかり歌っておくと「生きていくんだ」で一緒になったときに歌詞の力強さを表現できた。もっと伝わるように言葉の発音を整えて、発表に臨みたい。</p>	<p>【思考・判断・表現】 音の重なり方や強弱の変化を知覚・感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱表現を創意工夫している。(観察・ワークシート)</p>
まとめ	1	<p>◎歌詞の内容や曲想にふさわしい歌唱表現するために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。</p> <p>工夫したことを生かして歌うためには、どのように歌えばよいだろうか。</p>	<p>○録音を聴いて、本時の課題を立てる。</p> <p>○パートごとに振り返りながら練習し、今まで取り組んだ表現の工夫を歌で表現できるようにする。</p> <p>○一曲を通して歌い、題材の学習を振り返る。</p>	<p>☆工夫したことを生かして歌うために、身体を使って強弱をつけ、子音を立てて言葉を伝えることができた。これからも、歌詞の内容に注目して、音の重なりや強弱を生かして歌っていききたい。</p>	<p>【知識・技能】 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。</p> <p>(観察)</p>